

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「斉衡四年三条
戊戌□

・「□正倉帳

(86)×33×5 061

斉衡四年は二月二日に天安と改元され、改元とはほぼ同時期に西三条第の主、藤原良相が右大臣となっている。正倉については、六町に北接して穀倉院が、東隣には右京職が所在したことから、それら官衙施設との関連がうかがえる

が、この地は西三条第の推定地の一つであり、それに関係する可能性も否定できない。なお、「正倉帳」は『延喜式』にはみえず、「戊戌」は斉衡四年の干支丁丑には合致しない。

なお、釈読にあたっては、京都産業大学の井上満郎氏、京都大学の西山良平氏のご教示を得た。

9 関係文献

(財)京都市埋蔵文化財研究所『平安京右京三条一坊三・六・七町跡』(京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報二〇〇一―五、二〇〇二年)

(山口 真)



奈良市教育委員会

『平城京跡出土墨書土器資料』Ⅰの刊行

平城京跡の発掘調査は、現在、奈良文化財研究所・奈良県立橿原考古学研究所・奈良市教育委員会・大和郡山市教育委員会で分担して実施している。本書は、奈良市教育委員会が担当した奈良市域の平城京跡の発掘調査で出土した古代の墨書土器の資料集である。一九七九年度から一九九九年度までの二一年間の調査を対象とし、平城京跡八五三点、東市跡推定地一〇九点、大安寺旧境内一三五点、元興寺旧境内八點、菅原寺旧境内一點、総計一一〇六點のデータの概要を収録し、主要なものの実測図と写真を掲載する。

平城宮跡の墨書土器については、奈良文化財研究所から継続的な刊行が行なわれているが、平城京跡の墨書土器の集成はこれが初めてである。これまでは個々の報告書でしか見られなかった資料を多数の未報告資料とともに一覧できて便利であり、宮内とは異なる都城の墨書土器の様相を概観できる貴重な資料集となっている。平城京跡の調査成果の基礎資料集として、今回の刊行の意義は大きい。

第一分冊A四版五二頁、二〇〇二年三月刊

第二分冊A四版本文一二頁・図版八頁・写真図版八頁 二〇〇二年一月刊 (非売品)